

## 第2節 商業・ビジネス領域における短大，専門学校の資格取得に対する支援とカリキュラムの決定要因に関する事例研究

亀野 淳（北海道大学）

### 1. はじめに

#### 1.1 本稿の問題意識

商業・ビジネス領域は他の分野と比較して学習内容や資格と職業の関連が乏しい分野であるが，同分野の短期大学，専門学校が存在し，資格取得に対して積極的な対応をみせる短大，専門学校も数多くある。

そこで，本稿では，①商業・ビジネス領域の短期大学，専門学校は他の分野と比較して就職状況，カリキュラムなどにどのような相違があるか，②商業・ビジネス領域の短期大学，専門学校間でも資格取得に対する支援や考え方が異なるが，それを規定している要因は何か，特に，就職環境，学生確保の状況，学校独自の教育理念との関連性はあるのか，の2点について，既存の統計調査結果と筆者が実施したインタビュー調査から明らかにしたい。

#### 1.2 分析手法

文部科学省「学校基本調査」を中心とした既存の統計調査結果と筆者が実施した短期大学2校及び専門学校1校への訪問によるインタビュー調査結果及び同校関係資料をもとに分析を行った。インタビュー調査を実施した短期大学，専門学校はいずれも政令指定都市に所在しており，その概要は以下のとおりである。

BJ3 短大：四年制大学に併設されている女子短期大学部であり，分析対象である経営学科の他に1学科を有する。

BJ6 短大：短期大学のみ女子短大であり，分析対象である経済学科の他に2学科を有する。

BP2 専門学校：ビジネス，会計，情報などの学科を有する商業実務系専門学校である。

## 2. 資格取得に対する支援とカリキュラム構成

### 2.1 資格取得の意義，目的

資格取得の意義をみると，①特定の職業に就くのに不可欠なもの，②能力の明示化，③勉学意欲の喚起に分けることができる。この3点から当該分野をみると，①特定の職業に就くには不可欠なもの（業務独占資格（参入資格））としては，公認会計士，税理士などに限られるが，これらは大卒者が中心で短大，専門学校で取得は困難である<sup>(1)</sup>。②能力の明示化については，求人・求職側の情報の非対称性をカバーするために能力のシグナルとしての資格の意義が存在する。③勉学意欲の喚起については，後述するようにこれを目的としている短大，専門学校もある。したがって，短大，専門学校では，①を目的とすることはほとんどないことから②及び③が主要な目的で

あると考えられる。

## 2.2 資格取得やカリキュラムの位置づけ（事例調査）

各学校において、資格取得やカリキュラムをどう位置付けているのか。以下では、インタビュー調査を実施した短大2校、専門学校1校について分析を行う。

### ①資格取得

まず、BJ3 短大では、在学中だけではなく、入学前に取得した資格に対して単位認定し、認定する単位は、履修上限の単位数（各学期20単位）から除外するとともに、一定の方式で卒業単位（「専門科目の選択単位」）に組み込むことが可能となっている。単位認定される資格は簿記・会計系、コンピュータ系、秘書系などであるが、日商販売士3級など比較的容易に取得できるものも含まれている。また、四年制大学と共通ではあるが、専門学校と連携した資格取得講座を学内において安価な受講料で開講するなど様々な資格取得支援を実施している。この開講講座は、日商簿記などの資格だけではなく、公務員受験対策講座など多岐にわたっている。つまり、同校は資格取得をカリキュラム上に積極的に位置づけており、同時にそれらの取得を支援していることがわかる。ただし、インタビューによると、「授業内容が資格所得に偏っており、学習意欲の向上には効果があると思われるが、ビジネス分野を体系的に学べていないことから、見直しの動きもある」ということである。

一方、BJ6 短大では、簿記やコンピュータ関連の資格取得を目指した授業科目を開講しているが、当該資格試験の可否と単位認定は関係のないものとなっている。この点は、入学前も含めて資格取得がそのまま単位となる BJ3 短大と大きく異なる点である。また、他学科と共通であるが、課外講座として、秘書技能検定、実用英語技能検定、簿記検定、日本語ワープロ・情報処理検定の資格取得講座を無料で開講しているが、その数は BJ3 短大に比べると少ない。このように、同校は、資格取得に対して支援は行っているものの、それを授業科目の一環として実施しているか、全く、授業科目とは切り離れた講座として実施しており、この点も BJ3 短大と異なる。

BP2 専門学校は、資格取得を明示的にカリキュラム内に位置づけているわけではなく、カリキュラムとしては重要視していない。授業内容はコンピュータ関連の科目を除き、ほとんどが講義形式の座学中心であり、知識の付与を目的としているが、資格取得を念頭においた授業内容にも心がけているようである。実際、取得目標資格として、販売士2級などが掲げられている。一方、授業科目外では、資格取得のための独自講座を担当の教員が土・日曜日に開講するなど積極的に支援している。

こうしてみると、今回取り上げた3つの学校の事例をみると、以下のように整理できる（表1）。

- ①単位認定・積極支援型：入学前及び在学中に資格を取得すれば単位として認定、カリキュラム外でも無料講座など積極的に支援（BJ3 短大）
- ②カリキュラム外支援型：カリキュラムとしては重要視していないが、カ

表1 資格取得に対する短大、専門学校の考え方の類型

		カリキュラム上の位置づけ	
		大	小
授業外での支援	大	①単位認定・積極支援型 (BJ3短大)	②カリキュラム外支援型 (BP2 専門学校)
	小		③消極支援型 (BJ6短大)

リキュラム外で資格取得のための独自講座を開講するなど積極的に支援（BP2 専門学校）

③消極支援型：資格取得を念頭においた授業科目も一部あるが、試験の可否と単位認定は関係なし（BJ6 短大）

これをみると、短大、専門学校という学校種のみで相違を説明することは困難であり、学校種以外の要因は何かということを検討すべきである。この点については、3で述べる。

## ②授業カリキュラムの位置づけ

次に、当該領域において短大、専門学校が提供している授業カリキュラムを分析してみたい。

まず、文部科学省の調査<sup>(2)</sup>から、大学、短期大学、専門学校の講義、演習、実験・実習等の構成比を他の分野と比較すると、次のことがわかる（表2）。

- 大学については、文系は講義の割合が最も高い。
- 短大については、ビジネス系は講義の割合が最も低く、演習が高い。
- 専門学校については、商業実務は講義の割合が最も高く、演習が低い。

これらのことから、短大と専門学校は他の分野に比べて最もその差が小さいのではないかと推察される。

そこで、インタビュー調査を実施した2つの短大を対象に比較を行った<sup>(3)</sup>。

BJ3 短大は、共通科目16単位以上、専門科目40単位以上、計62単位以上の取得が卒業要件となっている。うち、共通科目は、情報系、キャリア系、日本文化の3科目6単位が必修であり、残り10単位以上は外国語、保健体育、情報、人文科学系、社会科学系、自然科学系の科目からの選択となっている。また、専門科目については、ビジネス実習系科目4単位、ゼミナール4単位の計8単位が必修であり、残り32単位以上は経営学系、ビジネス実務系、情報系、簿記・会計系の科目からの選択となっている。

BJ6 短大は、共通教養科目23単位以上、専門科目45単位以上、計68単位以上の取得が卒業要件となっている。また、卒業要件には参入されないものの、海外研修、企業研究プログラム（インターンシップ実習及びそれに関する事前・事後研修）が開講されている。うち、共通教養科目は、外国語、文書作成、教養系、ゼミナールなどその多くが必修または選択必修となっている。専門科目については、経済学及び経済事情に関する講義科目が中心であり、これに加えて、ゼミナール（3単位必修）、簿記やコンピュータ演習系科目が選択となっている。

次に、授業科目を、授業内容（教養系、実務系、専門理論系）と授業方法（講義、演習・実習）にマトリックス化し、その構成比を算出し、2校の事例を比較することとする（表3-1, 3-2）。ただし、内容及び方法の区分については、筆者が授業科目名や入手できたシラバス等をもと

表2 講義、演習、実習・実験の割合

	講義	演習	実験・実習等
大学	78.0	7.8	14.2
文系	81.0	12.2	6.8
福祉系	73.4	9.7	16.9
看護系	79.6	2.4	18.0
工学系	78.3	6.4	15.3
保育系	68.6	13.7	17.7
短大	67.3	13.7	19.0
ビジネス系	58.1	38.7	3.2
家政系	61.3	16.4	22.3
福祉系	72.7	13.3	14.0
看護系	71.1	4.8	24.1
工学系	67.7	3.1	29.2
保育系	77.4	3.2	19.4
専門学校	50.8	43.9	5.3
商業実務	67.6	29.6	2.8
工業	46.4	52.4	1.2
農業	34.4	59.5	6.2
医療	56.1	31.3	12.5
衛生	42.9	55.1	2.0
教育・社会福祉	52.7	35.6	11.7
服飾・家政	25.6	73.2	1.2
文化・教養	46.7	52.2	1.1

資料：中央教育審議会（2011）注釈関係資料 pp191-201より作成

表3-1 授業内容と授業方法の構成比  
(BJ3 短大)

	講義	演習・実習	計
教養系	19%	0%	19%
実務系	29%	39%	68%
専門理論系	13%	0%	13%
計	61%	39%	100%

表3-2 授業内容と授業方法の構成比  
(BJ6 短大)

	講義	演習・実習	計
教養系	38%	7%	46%
実務系	9%	7%	16%
専門理論系	38%	0%	38%
計	85%	15%	100%

に恣意的に行ったものであり、今後はその区分のあり方についても一層の検討を要すべき課題である。

BJ3 短大と BJ6 短大を比較すると、授業内容では、BJ3 短大は実務系が多いのに対し、BJ6 短大は教養系、専門理論系が多くなっている。また、授業方法では BJ3 短大は演習・実習が BJ6 短大に比べると相対的に多くなっている。このように、資格取得に関する取組みと同様に短大においても大きく異なることが、明らかになった。上述したように学習内容と職業との関連が相対的に不明確な当該分野においては、その学習内容は、各学校で均一ではなく、短大、専門学校ごとに大きく異なっている。以下では、その要因として、入学・就職状況と教育理念に着目し、これらとの関連性についてみてみたい。

### 3. 入学・就職状況や教育理念との関連

BJ3 短大は、入学者の確保、就職状況においても相対的には BJ6 短大よりは厳しい状況にある<sup>(4)</sup>とともに、経済学部を中心とした四年制大学をもとに設立されたこともあり、実学を重視した校風、教育理念を有している。一方、BJ6 短大は、学生の確保、就職状況も厳しくなっているものの、同地域内での相対的な優位性は確保している。また、教養科が中心となり設立された経緯もあり、「教養」を重視した校風、教育理念を有している。

また、BP2 専門学校は、就職状況は比較的良好であるが、入学状況は他のビジネス系専門学校と同様に厳しいものと推測される。また、実学を重視した校風、教育理念であるといえる。

このわずか3校からの事例により、入学・就職状況や教育理念と資格取得、カリキュラム構成の関係をみると、入学・就職状況が厳しい学校ほど、資格取得を積極的に支援するとともに、実務系、演習・実習中心のカリキュラムを設定し、入学希望者に積極的にアピールしている。また、実務重視の学校ほど、資格取得を積極的に支援するとともに、実務系、演習・実習中心のカリキュラムを構成しているのに対し、教養重視の学校ほど、資格取得への関与は小さく、教養系、講義中心のカリキュラム構成となっている。

### 4. おわりに

本稿では、商業・ビジネス領域の短大及び専門学校の事例を中心に考察したが、当該分野は、他の分野に比べ、学習内容と職業の関係が明確でないため、逆に各学校を取り巻く環境や学校の思想がカリキュラムや資格取得に対する考え方に大きな影響を与えていると思われる。

今後は、当該分野の特徴を他の分野との比較を通してより明確にすることはもちろんであるが、当該分野内における相違とその要因にも着目しながらより詳細なアンケート調査やインタビュー調査を実施することが重要である。

#### 〈注〉

- (1) 濱中（2009）は工業関係、商業実務関連の専門学校を卒業し、非資格職（参入するときに資格を必要としない職業）に従事するケースについては、学習に関連した職業に就いたとしても目立ったこと効果が認められないことをアンケート調査の個票データから明らかにしている。
- (2) 中央教育審議会キャリア教育・職業教育特別部会（2009）の参考資料の中で文部科学省調査として掲載されている。ただし、サンプリング数が少ないことに留意する必要がある。
- (3) BP2 専門学校については、十分な資料を入手できなかったため、本分析は行わなかった。
- (4) ただし、その差は四年制大学における選抜性の高い研究大学と選抜性の低いいわゆるマージナル大学のような大きな差はない。

#### 〈参考文献〉

- 中央教育審議会（2011）『今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について（答申）』（平成23年1月31日）
- 濱中淳子（2009）「専修学校卒業者の就業実態——職業教育に期待できる効果の範囲を探る——」『日本労働研究雑誌』No.588, pp.34-43
- 吉本圭一（2009）「専門学校と高等職業教育の体系化」『大学論集』（広島大学高等教育研究開発センター）第40集, pp.199-215